
第2章

これまでの取組と課題

第2章 これまでの取組と課題

1 第1次計画の達成状況

(1) 成果指標からみた達成状況

第1次環境基本計画において《10年後の目標》として掲げた14の成果指標の達成状況は以下のとおりです。対基準値については14成果指標中8つが基準値を達成していますが、対目標値になると14成果指標中2つしか基準値を達成していないのが現状です。新型コロナウイルス感染症の影響などもあったとはいえ、今後の課題として残っています。

基本方針1：低炭素型社会の実現

単位施策の成果指標	基準値 (H23)	目標値 (R4)	現状値 (R3)	達成状況		指標の説明
				対基準値	対目標値	
①地球温暖化対策実行計画 (区域施策編)の策定	—	策定 (R2)	策定 (R4)	×	×	—
②住宅用太陽光発電システム 設置費補助件数(件)	60	60	66	○	○	年間補助件数 ※～H30(パネル単体) ※現在は、「住宅用地球 温暖化対策設備設置 費補助金」
③省エネ商品やリサイクル 商品の購入に努めている 市民の割合(%)	29.7 (H20)	40.0	19.6 (H30)	×	×	市民意向調査で の回答のあった 割合
④緑のカーテンの公共施設 設置数(箇所)	14	26	27	○	○	公共施設における 緑のカーテン 設置箇所数

基本方針2：資源循環型社会の構築

単位施策の成果指標	基準値 (H23)	目標値 (R4)	現状値 (R3)	達成状況		指標の説明
				対基準値	対目標値	
⑤市民1人当たりのごみ排 出量(g/日)	494	390	446	○	×	年間収集ごみ量 ÷年度末総人口 ÷365日
⑥ごみの資源化率(%)	26.2	34.0	21.4	×	×	年間の(収集資 源物量+集団回 収量)÷(収集ご み量+収集資源 物量+集団回収 量)

基本方針3：自然共生と生物多様性の確保

単位施策の成果指標	基準値 (H23)	目標値 (R4)	現状値 (R3)	達成状況		指標の説明
				対基準値	対目標値	
⑦五条川などの水辺に親し みを感じる市民の割合 (%)	71.8 (H22)	80.0	73.5	○	×	市民アンケート: 「とても感じている」+「感じている」
⑧自然生態園で生息するト ンボの種類(種)	18	26	16	×	×	当概年の調査で 確認した種類数
⑨自然生態園及び五条川で のイベント参加人数(人)	840	1,100	232 (H30:588)	×	×	自然生態園及び 五条川の水辺ま つりの参加者数

基本方針4：地域における生活環境の向上

単位施策の成果指標	基準値 (H23)	目標値 (R4)	現状値 (R3)	達成状況		指標の説明
				対基準値	対目標値	
⑩公害(騒音・振動・水質汚濁等)の防止対策に満足している市民の割合(%)	71.2 (H20)	80.0	77.9 (H30)	○	×	市民意向調査: 「満足」+「やや満足」+「普通」
⑪五条川待合橋地点のBOD値(mg/l)	2.0	1.8	1.9	○	×	愛知県の環境基準類型指定水域の環境基準地点で月1回県が実施する測定値の平均値
⑫アダプトプログラム里親登録者数(人)	2,226	2,800	2,277	○	×	年度末登録者数
⑬都市公園等の箇所数(箇所)	83	90	85	○	×	都市公園等の箇所数

基本方針5：協働による環境にやさしいまちづくり

単位施策の成果指標	基準値 (H23)	目標値 (R4)	現状値 (R3)	達成状況		指標の説明
				対基準値	対目標値	
⑭環境関連イベントへの参加者数(人)	10,679	12,000	461 (H30: 10,509)	×	×	環境フェア、クリーンチェックいわくら等の環境関連イベントへの参加者の総数

(2) 主要事業の達成度評価からみた達成状況

第1次計画では、5つの基本方針を実現するために実施する事業を「主要事業」と位置づけ、その進捗状況を管理し、達成度を年度ごとに評価してきました。基本施策ごとの主要事業の達成度評価点※からみた主な成果と課題を整理すると以下のとおりです。

「2-2 廃棄物の適正処理の推進」や「4-1 公害対策等の推進」の評点は4.4と高い一方で、「1-2 事業活動における温室効果ガスの低減」については2.5と低く、事業者に対する地球温暖化対策への行政としてのアプローチが十分でなかったといえます。また、「5-1 環境学習・環境教育の推進」の評点は3.4で、「3-2 多様な生態系の保全及び創造」の評点も3.7とあまり高くありません。

※主要事業の達成度評価基準 年度ごとの評価点の平均を「評点」とした。

実施した事業		
点	ソフト事業（イベントなど）	ハード事業（工事など）
5	問題なく実施できている	当該年度で事業が完全に終了した
4	軽微な課題・問題点はあるものの、滞りなく実施できている	当該年度で事業の8割程度が終了している
3	複数の課題・問題点があり、次年度実施にあたっては見直しが必要である	当該年度で事業の6割程度が終了している
2	課題・問題点が大きく、次年度実施にあたっては大幅な見直しが必要である	当該年度で事業の4割程度が終了している
1	課題・問題点により、次年度実施が難しい、または不可能な状態にある	当該年度で事業の2割程度が終了している
検討した事業		
5	実施に向けた検討が終了し、次年度実施できる状態にある	
4	実施に向けた検討がおおむね終了し、次年度軽微な調整をすれば実施できる状態にある	
3	実施に向けた検討・打ち合わせを行い、おおむね2～4年後には実施できそうな状態にある	
2	実施のめどは立っていないものの、内部・外部との打ち合わせを行った	
1	検討に向けての情報収集を行った	

基本方針1：低炭素型社会の実現

1-1：市民生活における温室効果ガスの低減

評点の平均	主な成果・課題のポイント
3.7	●住宅用太陽光発電システム設置費補助事業（No.5）は、「住宅用地球温暖化対策設備設置費補助事業」として補助メニューを増やしつ、再生可能エネルギー利用の促進と、HEMSによる見える化を進めることができた。また、緑のカーテンの実施を市民や事業者に広く呼びかけ、地球温暖化対策に自ら関わってもらう機会を創出した。 ●農業フェア（No.7）や野菜の広場運営事業（No.8）、新ブランド野菜研究事業（No.9）によって、地元産の食物に愛着をもってもらい、地産地消の推進に寄与した。

No.	事業名	評点
1	CO ₂ の「見える化」機器等普及促進事業	3.4
2	優秀な省エネ実践市民特典制度事業	3.3
3	CO ₂ 削減ライトダウンキャンペーン	3.8
4	地球環境にやさしい生活術・経済活動術の普及拡大事業（省CO ₂ 編）	3.4
5	住宅用太陽光発電システム設置費補助事業	4.1

No.	事業名	評点
6	廃食用油回収事業	4.0
7	農業フェア	4.0
8	野菜の広場運営事業	3.3
9	新ブランド野菜研究事業	3.6
10	レジ袋有料化事業	3.9

1-2：事業活動における温室効果ガスの低減

評点の平均	主な成果・課題のポイント
2.5	●市内事業者に対して主に緑のカーテン事業への参加を呼びかけ、地球温暖化対策への意識の高揚を図ることができた。また、新型コロナウイルス感染症の影響で実施できなかったものの、緑のカーテン講座の実施に向けた準備と、広報活動を行った。 ●しかしながら、環境技術等のノウハウの提供や助言、移転など各事業所の温室効果ガス排出量の削減に直接寄与するような制度を整えるには至らなかった。

No.	事業名	評点
11	中小事業所への環境技術移転等推進事業	1.5

No.	事業名	評点
12	地球環境にやさしい生活術・経済活動術の普及拡大事業（省CO ₂ 編）【No.4の再掲】	3.4

1-3：行政の環境配慮率先行動の推進

評点の平均	主な成果・課題のポイント
3.9	●ノー残業デー（No.13）やノーカーデー（No.14）、さわやかエコスタイルキャンペーン（No.15）など、職員による省エネルギー・エコについて率先して取り組んでいる。また、市庁舎や他の公共施設についても、環境に配慮した管理や省エネ型機器の導入を進めている。 ●率先行動についてはおおむね実施が進んでおり、実践する職員や公共施設を増加させ、さらに拡大していくことが望ましい。

No.	事業名	評点
13	ノー残業デー	2.9
14	ノーカーデー	3.0
15	さわやかサマースタイルキャンペーン（H27～さわやかエコスタイルキャンペーン）	4.1
16	地球温暖化対策実行計画の改定	3.9
17	環境に配慮した庁舎管理	3.9
18	さくらの家新エネルギー導入事業（太陽光発電）	5.0
19	屋外公共施設における省エネルギー機器等導入事業	3.9

No.	事業名	評点
20	水道施設（配水ポンプ設備）の更新	3.0
21	学校における節電等の省エネ活動の推進	4.0
22	公共施設におけるCO ₂ の「見える化」事業	3.9
23	公用車の低公害車化、エコドライブの推進	3.9
24	保育園園庭芝生化事業	5.0
25	緑のカーテン事業	3.7

1-4：環境負荷の少ない都市づくり

評点の平均	主な成果・課題のポイント
3.7	●都市計画道路北島藤島線整備事業（No26）によって、市内東西交通がスムーズとなり、走行距離や使用時間、アイドリング時間を減少させ、温室効果ガスの削減に寄与した。都市計画道路桜通線整備事業（No31）についても引き続き整備に向けて進めていく。放置自転車等対策事業（No27）や尾北自然歩道休憩所整備事業（No29）や尾北自然歩道道路整備事業（No30）によって、自転車や徒歩で移動を楽しむまちづくりを進めた。 ●移動手段における温室効果ガス削減という観点から、エコカーやエコドライブ、カーシェアリングの普及についても検討の余地がある。

No.	事業名	評点
26	都市計画道路北島藤島線整備事業	4.3
27	放置自転車等対策事業	3.7
28	ユニバーサルデザインの推進	3.9
29	尾北自然歩道休憩所整備事業	3.6
30	尾北自然歩道道路整備事業	3.8

No.	事業名	評点
31	都市計画道路桜通線整備事業	3.0
32	保護樹等指定事業	3.4
33	公共緑化事業	3.0
34	緑化木無料配布事業	4.6

基本方針2：資源循環型社会の構築

2-1：廃棄物の3Rの促進

評点の平均	主な成果・課題のポイント
3.9	●親子ごみ探検教室（No35）や大人の社会見学（No36）、学校における3Rの推進（No42）を通じて、ごみの減量や3Rに対する市民意識の向上に努めた。分別収集（No37）や日曜資源回収ステーション（No38）をはじめ、適正な分別と資源化の徹底および機会の提供が着実に進められている。 ●コロナ禍である令和元年度および令和2年度を除けば、排出されるごみの量が年々減少している。 ●今後は、フードロスの削減やプラスチックごみの削減、リサイクルが課題となっている。

No.	事業名	評点
35	親子ごみ探検教室	4.5
36	大人の社会見学	3.4
37	分別収集	4.6
38	日曜資源回収ステーション	4.6
39	市役所庁内で排出されるごみの分別及び資源化	3.9
40	廃食用油回収事業【No.6の再掲】	4.0
41	粗大ごみ有料戸別収集事業	4.4
42	学校における3Rの推進	4.0
43	環境サポーターの養成	2.9

No.	事業名	評点
44	資源ごみ回収団体助成金	4.4
45	地球環境にやさしい生活術・経済活動術の普及拡大事業（3R編）	3.5
46	事業所ごみ減量化・資源化マニュアルの作成・配布	3.7
47	リサイクル工房	3.0
48	古紙と古着の日	4.4
49	いわくらフリーマーケット	3.5
50	不用品データバンク	3.5
51	生ごみ処理機購入補助	4.4
52	剪定枝・落ち葉等の堆肥化調査	2.9

2-2：廃棄物の適正処理の推進

評点の平均	主な成果・課題のポイント
4.4	●分別収集（No53）や日曜資源回収ステーション（No54）、資源ごみ回収団体助成金（No55）、古紙と古着の日（No56）の事業の充実によって、家庭系一般廃棄物や資源の分別は着実に進んでいる。 ●事業者に対しては、廃棄物の適正な処理についての啓発（No58）において、誤った処理を行う業者への指導やリーフレットの配付を行い、啓発に努めた。 ●不法投棄に対しては、不法投棄監視ウィーク（No59）における一斉回収の実施や、不法投棄防止防犯カメラの設置（No60）により、不法投棄の未然防止のための啓発と、適切な原状回復に努めた。 ●防犯カメラによる監視のみでは不十分であるため、市民や地域と一体となって、不法投棄をしない、させないという機運を高めるとともに、不法投棄者に対する厳格な対処が求められる。

No.	事業名	評点
53	分別収集【No37の再掲】	4.6
54	日曜資源回収ステーション【No38の再掲】	4.6
55	資源ごみ回収団体助成金【No44の再掲】	4.4
56	古紙と古着の日【No48の再掲】	4.4

No.	事業名	評点
57	ごみ焼却施設の整備	4.9
58	廃棄物の適正な処理についての啓発	3.9
59	不法投棄監視ウィーク	4.0
60	不法投棄防止防犯カメラの設置	4.1

基本方針3：自然共生と生物多様性の確保

3-1：自然とふれあえる場の保全及び創造

評点の平均	主な成果・課題のポイント
3.8	●五条川親水事業（No61）や桜管理等事業（No63）によって、市民や市民団体と協働で五条川や桜に親しみながら、保全と管理に努めた。 ●また、緑化ウォール事業（No64）や花のあるまちづくり事業（No68）によって、幹線道路や五条川沿岸に緑や花を植え付けた。 ●さらに、農業振興事業（No70）や農業振興地域整備事業（No71）で農地の確保や保全を支援しながら、農業体験事業（No76）や市民農園事業（No77）で市民が農業とふれあう機会を創出した。

No.	事業名	評点
61	五条川親水事業	3.3
62	多自然型河川整備による五条川護岸整備事業	3.0
63	桜管理等事業（五条川桜の施肥等）	4.7
64	緑化ウォール事業	3.7
65	保護樹等指定事業【No32の再掲】	3.4
66	公共緑化事業【No33の再掲】	3.0
67	緑化木無料配布事業【No34の再掲】	4.6
68	花のあるまちづくり事業	3.7
69	学校等における緑化事業	4.0

No.	事業名	評点
70	農業振興事業	3.9
71	農業振興地域整備事業	3.1
72	農業委員会業務	4.0
73	農地バンク事業	4.0
74	新ブランド野菜研究事業【No9の再掲】	3.6
75	自然生態園施設管理事業	4.8
76	農業体験事業	3.8
77	市民農園事業	4.0
78	友好交流事業	3.7

3-2: 多様な生態系の保全及び創造

評点の平均	主な成果・課題のポイント
3.7	●外来生物駆除事業（No81）や外来生物バスターズ事業（No85）を実施し、定期的に外来生物を駆除するとともに、その対象も広げている。 ●水生生物調査（No83）等では、小学生が五条川の生態系について知る機会を創出した。 ●学校ビオトープ事業（No86）は、児童が虫や植物の生態を観察するとともに、市内をつなぐビオトープネットワークの形成に寄与している一方で、全体的に設備が老朽化しており、維持管理の困難性や毛虫などの害虫対策などが課題として残っている。

No.	事業名	評点
79	自然生態園施設管理事業【No.75の再掲】	4.8
80	外来生物の問題点を学ぶ講座の開催	2.2
81	外来生物駆除事業	3.9
82	学校による生態系の体験学習・生物調査等事業	3.5

No.	事業名	評点
83	水生生物調査	4.0
84	市民ぐるみの身近な生き物調査の実施	3.9
85	外来生物バスターズ事業	2.9
86	学校ビオトープ事業	4.0

3-3: 水循環の構築

評点の平均	主な成果・課題のポイント
3.7	●水源の定期的な点検により、地下水の有効利用と維持管理が図られている（No87）。雨水地下貯留施設設置事業（No88）では、五条川小学校運動場に調整池を設置し、大雨時に貯水できるようになった。今後は大矢公園に調整池を設置する。 ●また、各家庭における浸水対策を進めるため、雨水貯留施設等設置費補助金制度（No89）を継続して実施している。

No.	事業名	評点
87	地下水の有効利用	3.9
88	雨水地下貯留施設設置事業	3.9
89	雨水貯留施設等設置費補助金制度	3.0
90	五条川親水事業【No61の再掲】	3.3
91	桜管理等事業（五条川桜の施肥等） 【No63の再掲】	4.7
92	緑化ウォール事業【No64の再掲】	3.7

No.	事業名	評点
93	農業振興事業【No.70の再掲】	3.9
94	農業振興地域整備事業【No.71の再掲】	3.1
95	農業委員会業務【No.72の再掲】	4.0
96	農地バンク事業【No.73の再掲】	4.0
97	新ブランド野菜研究事業【No.9の再掲】	3.6

基本方針4: 地域における生活環境の向上

4-1: 公害対策等の推進

評点の平均	主な成果・課題のポイント
4.4	●水質調査委託（No100）をはじめ、騒音・振動測定（道路）（No101）、航空機騒音測定（No102）、臭気指数規制の導入（No103）など、環境リスクの評価と監視は継続して実施できている。 ●一方で、それらの低減について効果的な対策を講じることは難しく、現状維持に留まっている。また、雑草や樹木の繁茂、野焼き、ペットのトラブル等の生活型公害に関する苦情は年々多様化・増加している。原因の解消に努めると同時に、住民同士の理解と調和を促す努力が求められる。

No.	事業名	評点
98	岩倉市公害防除施設整備資金利子補給補助金	3.4
99	公害等苦情処理	3.1
100	水質調査委託	5.0
101	騒音・振動測定（道路）	5.0

No.	事業名	評点
102	航空機騒音測定	4.6
103	臭気指数規制の導入	5.0
104	光化学スモッグ対策	5.0
105	水生生物調査【No83の再掲】	4.0

4-2: 快適な地域環境の保全

評点の平均	主な成果・課題のポイント
3.7	●アダプトプログラム事業（No.106）やクリーンチェックいづくら（No.107）、クリーンキャンペーン（No.108）の実施により、環境活動への市民参加の機会を確保している。特定の個人や団体だけでなく、広く一般市民が参加できる取組へと展開したい。 ●単独処理浄化槽や汲み取り便槽から、下水道への接続または合併処理浄化槽への転換をさらに進めていく必要がある（No.110～No.113）。 ●犬猫の適正飼養の啓発・周知や地域猫活動への支援を継続し、ペットトラブルの解消と改善に努めていく必要がある（No.115, No.116）。

No.	事業名	評点
106	アダプトプログラム事業	4.0
107	クリーンチェックいづくら	4.2
108	クリーンキャンペーン	5.0
109	不法投棄監視ウィーク【No.59の再掲】	4.0
110	下水道出前講座	3.0
111	水洗化改造資金利子補給事業	3.4
112	合併処理浄化槽設置整備補助金の交付	3.0
113	し尿処理	3.0

No.	事業名	評点
114	スズメバチ等駆除	5.0
115	岩倉市地域ねこ支援活動事業	3.1
116	狂犬病予防注射	3.1
117	保護樹等指定事業【No.32の再掲】	3.4
118	公共緑化事業【No.33の再掲】	3.0
119	緑化木無料配布事業【No.34の再掲】	4.6
120	屋外広告物取締り事業	4.0

基本方針5：協働による環境にやさしいまちづくり

5-1：環境学習・環境教育の推進

評点の平均	主な成果・課題のポイント
3.4	●環境学習実施プログラムの作成は進展させることができなかったが、その他の環境学習や環境教育については、継続して実施できている（No.121～No.127）。 ●歴史・文化資源の保護や継承についても継続して取り組んでおり、一定の成果が得られている一方で、これらの事業が市民の環境意識の向上や環境活動の推進に結びついているかどうかの検証が必要である（No.128～No.134）。

No.	事業名	評点
121	親子ごみ探検教室【No.35の再掲】	4.5
122	環境フェア	4.0
123	環境学習実施プログラム（実施計画）の作成	1.0
124	学校による生態系の体験学習・生物調査等事業【No.82の再掲】	3.5
125	水生生物調査【No.83の再掲】	4.0
126	学校ビオトープ事業【No.86の再掲】	4.0
127	学校における環境教育事業	3.7

No.	事業名	評点
128	文化財データベース化事業	3.1
129	文化財展示・PR事業	3.1
130	岩倉探訪	4.0
131	史跡公園施設管理	3.1
132	文化財保護事業	3.1
133	山車展示・巡行事業	4.0
134	山車映像情報発信事業	3.1

5-2：環境行動を促す支援の充実

評点の平均	主な成果・課題のポイント
3.9	●市民プラザ内に設置した市民活動支援センターが中心となり、市民と市民団体の交流や市民団体同士の交流が図られている。また、市民活動助成金事業（No.135）によって、資金や運営上の支援を受けることで、誰もが市民活動を始めやすい環境が整っている。 ●しかしながら、メンバーの高齢化や後継者不足など活動の継続に不安を抱える団体も少なくない。また、事業者や地域団体との交流については発展の余地が残されており、マルチパートナーシップの実現に向けてさらなる展開が望まれる。

No.	事業名	評点
135	市民活動助成金事業	4.0
136	市民活動支援センター事業	4.0

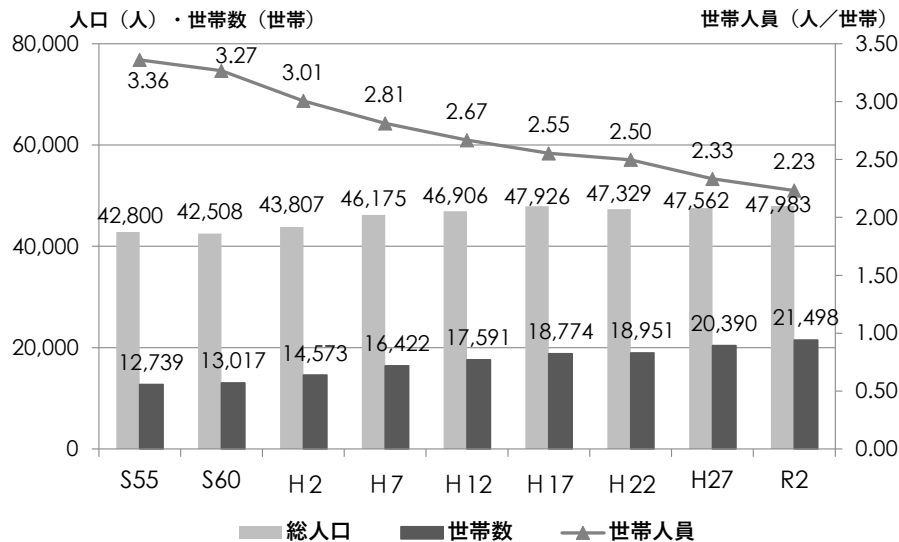
No.	事業名	評点
137	まちづくり交流会事業	3.7

2 データからみる岩倉市の環境

①人口と世帯数

●人口はおおむね横ばい。世帯数は増加傾向。

図表 2-2-1 岩倉市の人口・世帯数の推移

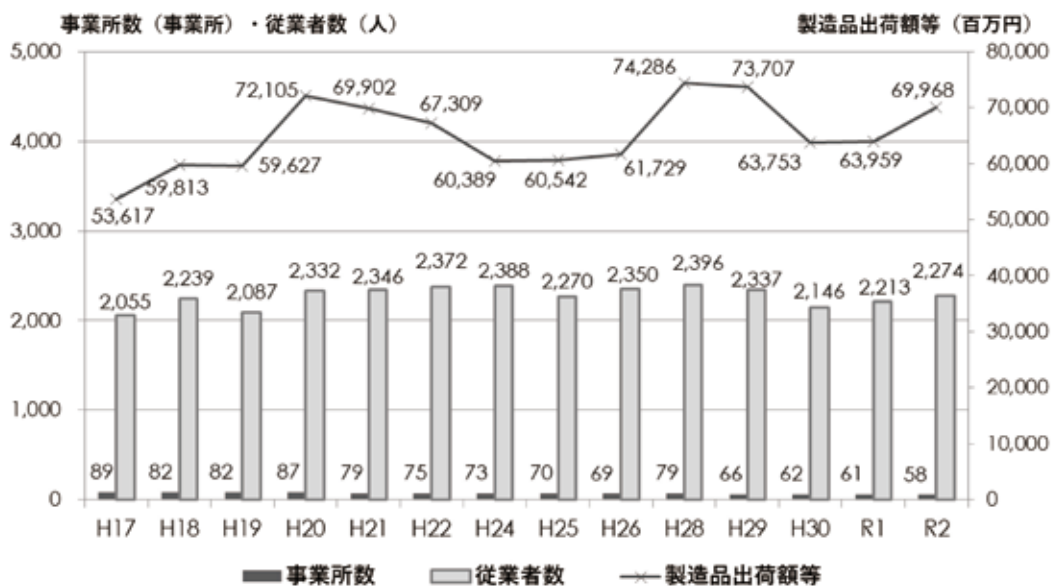


資料：国勢調査

②産業の状況（製造業の事業所数・従業者数・製造品出荷額等）

●多少上下しながらもおおむね横ばいで推移。

図表 2-2-2 岩倉市における製造業の事業所数・従業者数・製造品出荷額等の推移



資料：工業統計調査（従業者4人以上の事業所、H23、H27なし）

③岩倉市役所における温室効果ガスの削減実績

- 平成 29 年度から令和 3 年度にかけて 19.2%削減。新型コロナウイルス感染症の影響で市民利用施設の利用が減ったことも影響したと推察。

図表 2-2-3 排出源別温室効果ガス排出量の削減実績

単位：kg-CO₂

排出源	平成29年度 温室効果ガス排出量	令和 3 年度 温室効果ガス排出量	温室効果 ガス削減量	温室効果ガス 削減率 (%)
重油	27,371	0	▲ 27,371	▲ 100.0
軽油	59,258	43,535	▲ 15,723	▲ 26.5
灯油	57,636	35,947	▲ 21,689	▲ 37.6
ガソリン	71,214	65,097	▲ 6,117	▲ 8.6
LPガス	31,264	16,807	▲ 14,457	▲ 46.2
都市ガス	826,122	1,018,509	192,387	23.3
電気	3,200,923	2,272,597	▲ 928,326	▲ 29.0
公用車走行	2,418	2,094	▲ 324	▲ 13.4
合計	4,276,206	3,454,585	▲ 821,620	▲ 19.2

※四捨五入の関係で数値に誤差が生じる場合がある。

資料：岩倉市建設部環境保全課

図表 2-2-4 施設区別温室効果ガス排出量の削減実績

単位：kg-CO₂

施設区分	平成29年度 温室効果ガス排出量	令和 3 年度 温室効果ガス排出量	温室効果 ガス削減量	温室効果ガス 削減率 (%)
市民利用施設	753,273	459,316	▲ 293,957	▲ 39.0
事業施設	1,884,451	1,648,656	▲ 235,795	▲ 12.5
教育・福祉施設	1,638,482	1,346,613	▲ 291,869	▲ 17.8
合計	4,276,206	3,454,585	▲ 821,621	▲ 19.2

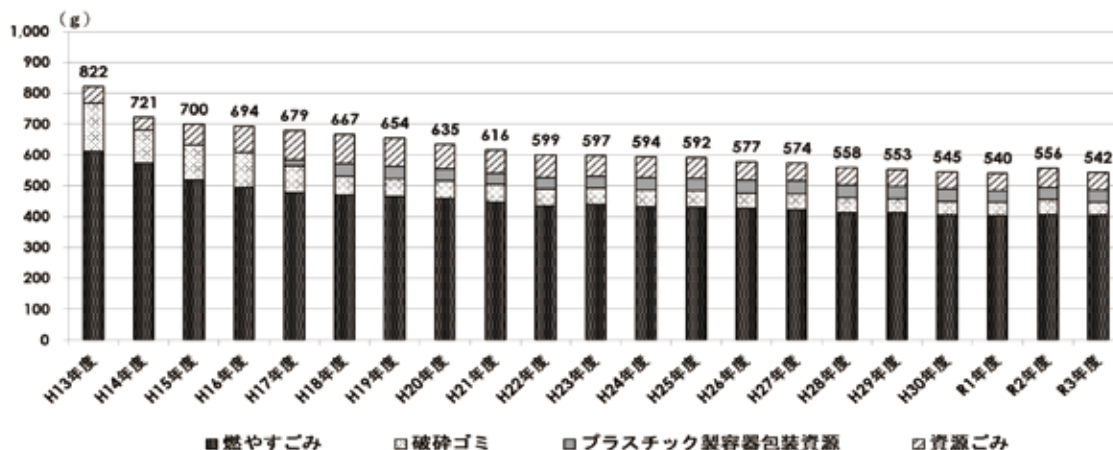
※四捨五入の関係で数値に誤差が生じる場合がある。

資料：岩倉市建設部環境保全課

④ごみの排出量の推移

- 市民 1 人 1 日当たりの家庭ごみ排出量は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、令和 2 年度に一旦増加した以外は、一貫して減少傾向。

図表 2-2-5 市民 1 人 1 日当たりの家庭ごみ排出量の推移

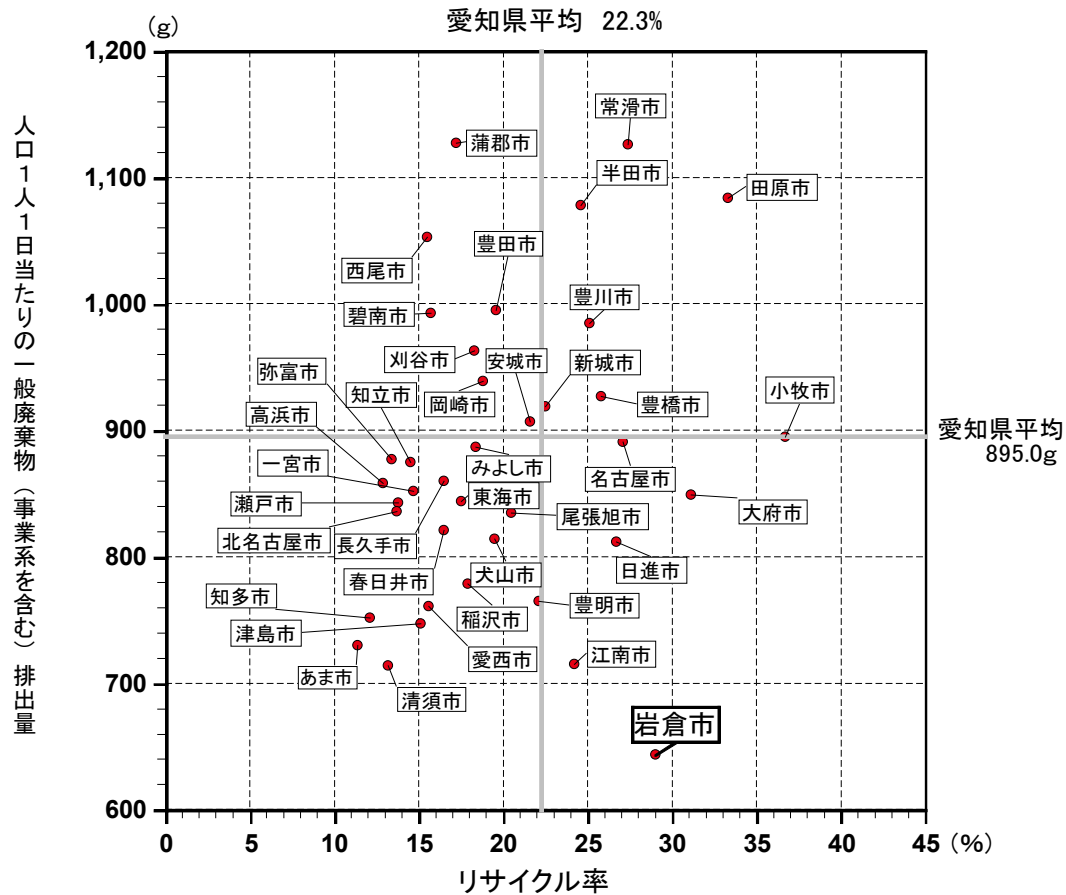


資料：岩倉市建設部環境保全課

⑤リサイクルの状況

- 人口1人1日当たりの一般廃棄物（事業系を含む）排出量は、愛知県下34市の中で最も少なく、リサイクル率は愛知県下34市の中で第4位。

図表2-2-6 リサイクル率と人口1人1日当たりの一般廃棄物（事業系を含む）排出量の水準



資料：令和2年度廃棄物処理事業実態調査

⑥市内での生物調査の結果

- 東海地域でも極めて先駆的なビオトープである「岩倉市自然生態園」は、昆虫類をはじめとした多様な動植物が生息する自然の宝庫。

図表 2-2-7 市内における生物調査の結果【種類数】

確認できた植物種数			確認できた動物種数		
分類	H22 年調査	R3 年調査	分類	H22 年調査	R3 年調査
樹木・草本	897	306	哺乳類	8	7
菌類	—	60	鳥類	83	38
計	897	366	爬虫類	9	6
			両生類	6	4
			魚類	13	—
			昆虫	320	344
			計	439	399

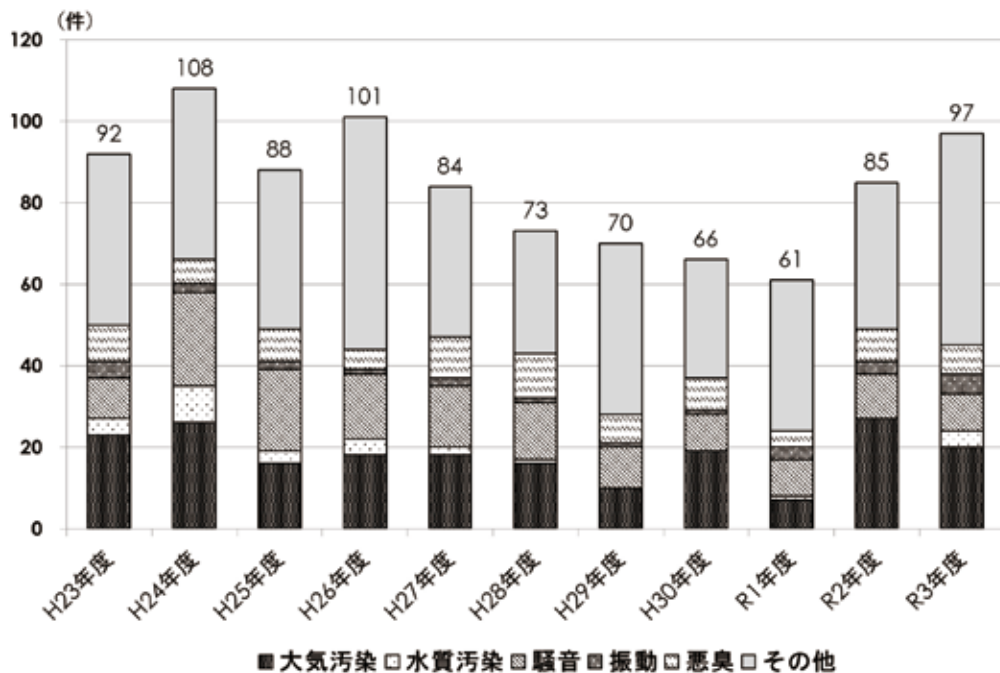
資料：「岩倉市自然生態園生きものの生息調査報告書」（令和3年度、岩倉ナチュラリストクラブ）

資料：「岩倉で見られる生き物」（平成22年度、岩倉ナチュラリストクラブ）

⑦公害苦情件数の推移

- 公害苦情件数は増減しているが、依然として大気汚染やその他（雑草、ふん害など）が高い割合。※本図表における大気汚染は、すべて野焼きなどの屋外燃焼行為を示す。

図表 2-2-8 岩倉市における種別公害苦情件数の推移

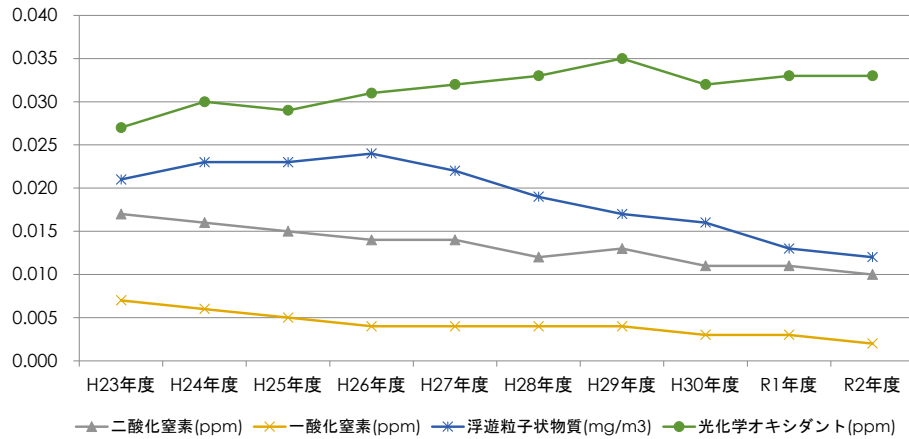


資料：岩倉市建設部環境保全課

⑧大気汚染の状況

- 物質ごとにみると、二酸化窒素、一酸化窒素、浮遊粒子状物質については、おおむね減少傾向。光化学スモッグの原因物質である光化学オキシダントについては、増加傾向。

図表 2-2-9 岩倉市における環境測定の結果【大気汚染】

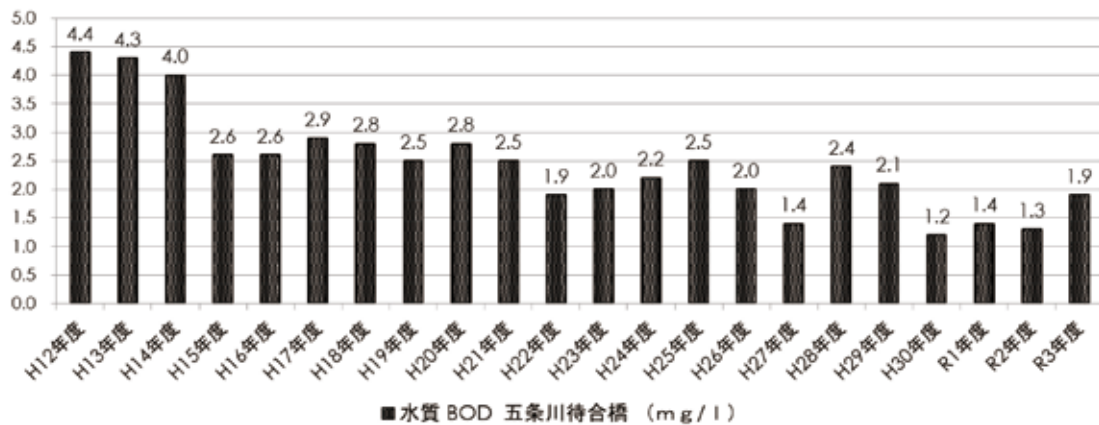


資料：大気汚染調査報告（愛知県）

⑨水質汚染の状況

- 平成 12 年度には 4.4mg/l と高い数値であったが、下水道整備の進展とともに改善。

図表 2-2-10 岩倉市における環境測定の結果【水質（BOD）】

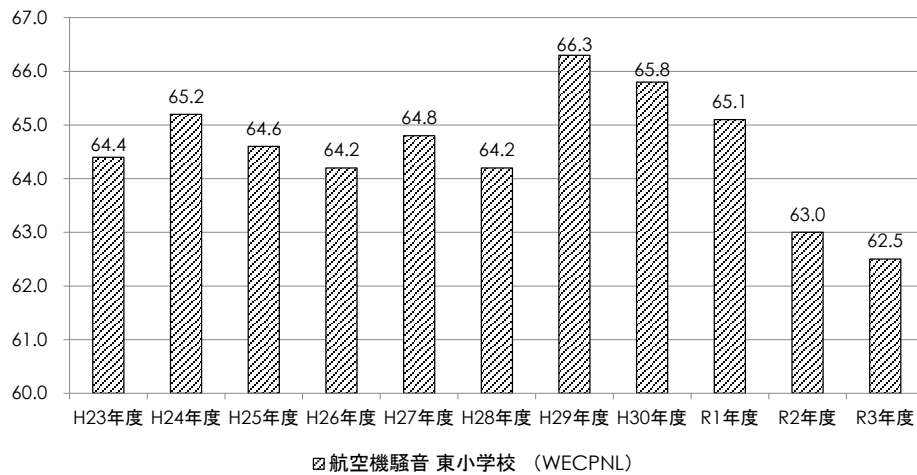


資料：岩倉市建設部環境保全課

⑩航空機騒音の状況

●航空機騒音は、一貫して環境基準（70WECPNL）未満を維持。

図表 2-2-11 岩倉市における環境測定の結果【航空機騒音】

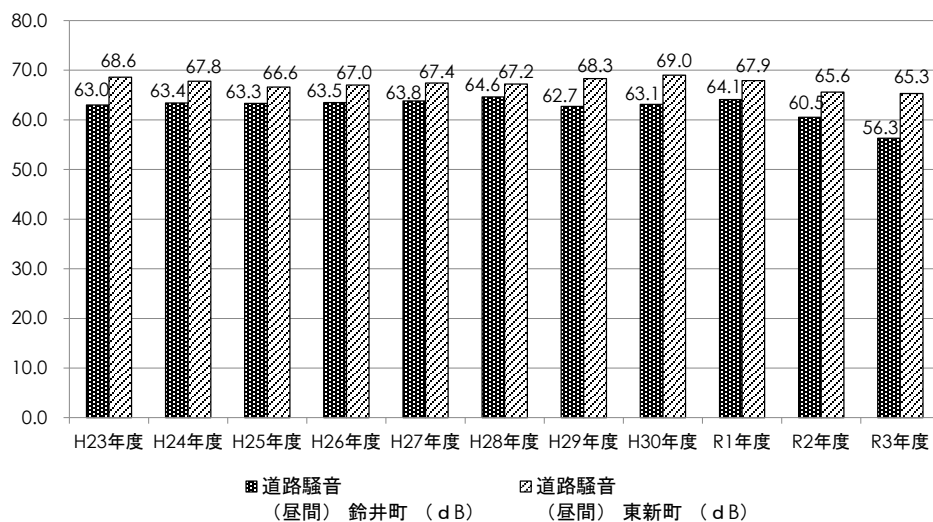


資料：岩倉市建設部環境保全課

⑪道路騒音の状況

●道路騒音は、一貫して環境基準（70db）未満を維持。

図表 2-2-12 岩倉市における環境測定の結果【道路騒音】



資料：岩倉市建設部環境保全課

3 市民アンケート・事業所アンケート結果概要

(1) 調査概要

市民の環境問題への意識や取組状況、今後の意向などを把握し、本計画の課題や今後の方向性を検討するために、「環境に関する市民アンケート調査」を実施しました。

【調査期間】令和3年11月26日（金）～12月13日（月）

【調査対象】住民基本台帳から無作為に抽出した市内在住の18歳以上の市民2,000人

【有効回答数】864人（有効回答率43.2%）

また同期間に、事業所に対して、環境問題への取組状況や今後の意向、課題などを把握するための「環境に関する事業所アンケート調査」を実施しました。

【調査期間】令和3年11月26日（金）～12月13日（月）

【調査対象】市内所在の事業所300社

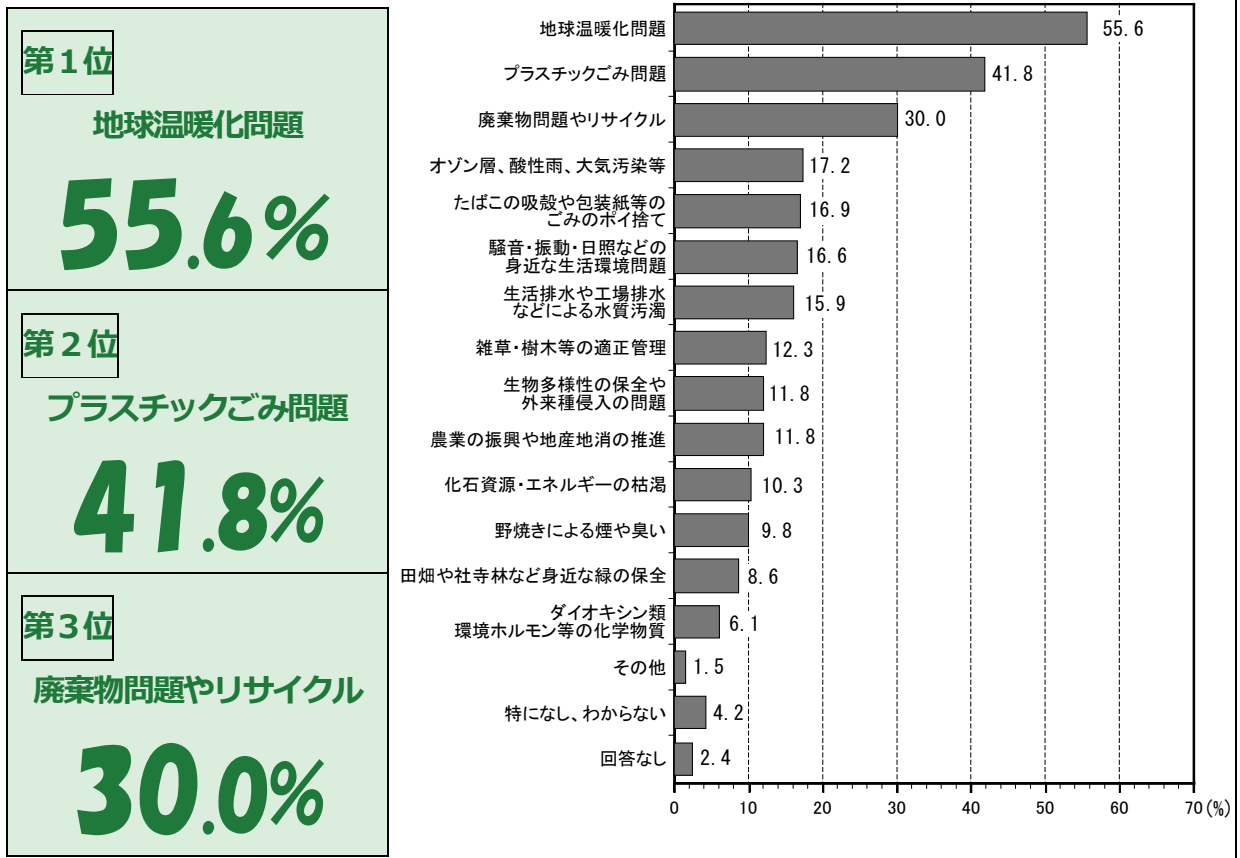
【有効回答数】122社（有効回答率40.7%）

(2) 調査結果のポイント（市民）

■3つの社会像に対する興味・関心



■関心のある環境問題



■SDGsについて

認知度

54.7%

「内容をよく理解している」が12.3%、「少しだけ内容を知っている」が42.4%

関心度

53.3%

「とても興味・関心がある」が13.4%、「少し興味・関心がある」が39.9%

■プラスチックごみ問題

関心度

89.0%

「非常に関心がある」が30.8%、「ある程度関心がある」が58.2%

■生物多様性の認知度

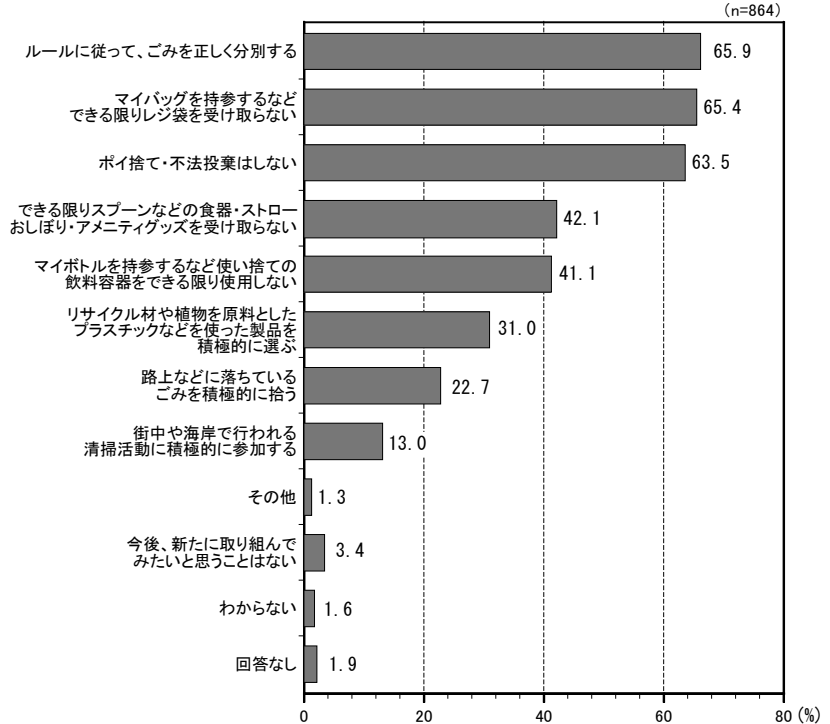
言葉の意味を知っていた

30.2%

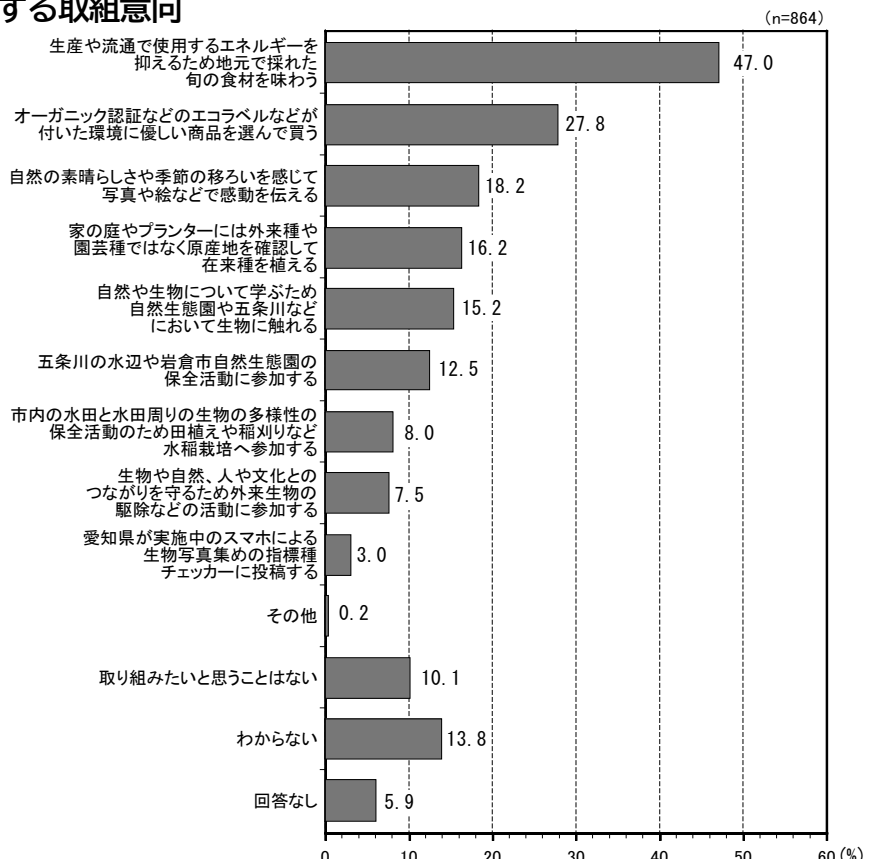
意味は知らないが、言葉は聞いたことがあった

49.8%

■プラスチック問題への今後の取組意向



■生物多様性の保全に対する取組意向



(3) 調査結果のポイント（事業所）

■SDGsの認知度・対応状況

「SDGsという言葉・内容が事業所内で
あまり浸透していない」という事業所

42.6%

「SDGsという言葉・内容は事業所内で
全く知られていない（今回の調査で初めて
認識した）」という事業所

15.6%

>

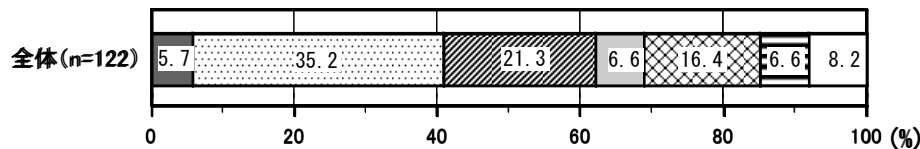
「SDGsについて既に社として対応・ア
クションを行っている」という事業所

24.6%

「SDGsについての社としての対応・ア
クションを検討している」という事業所

15.6%

■環境に関する地域への協働に対する考え



- 地域住民やNPO等の活動に積極的に参加したい。一緒に活動したい
- ▨ 地域住民やNPO等の活動に、側面から支援や協力をしていきたい
- ▩ 行政等の参加もあれば、地域住民やNPO等の活動にも協力していきたい
- 事業所における環境に関する取組に、地域住民も参加してほしい
- ▨ 地域住民やNPO等との協働や参加については、積極的に取り組みたくない
- その他
- 回答なし

■環境に関する地域活動への協力の可能性（従業員規模別）

